



神戸常盤大学

キャンパスレポート

2019.6
No.59

建学の精神

広く学術の基礎となる知識及び技能を授けるとともに、深く専門の学問及び技術を研究・教授して、知的、道徳的に優れた技術者を育成し、また成果を社会に還元することにより、国家及び地域社会の発展に寄与すること。

www.kobe-tokiwa.ac.jp/univ/

新たな段階に向けて

学長 濱田 道夫



今年のゴールデンウィークはこれまでにない10連休となりましたが、本学では5月8日が創立記念日なので、11連休になるように工夫されました。連休明けに学生諸君が元気に戻ってくるか心配する向きもありましたが、たいした問題もなくキャンパスは普段どおりの賑わいをとりもどしました。ただ、再開した授業についていくのには少し時間がかかったようです。長い休暇のあとなので、こればかりは仕方ありません。

連休中には平成から令和に元号が変わりました。そのときの盛り上がりもこれまでにないものでしたが、いまはそれも落ち着き、連続した時間が淡々と流れています。歴史は断絶と連続の両面で構成されているように思います。

本学もいま新たな段階に向かおうとしています。来年4月の開設に向けて、保健科学部に新しい学科「診療放射線学科」(仮称)を現在構想中です。“がん”などの病気の早期発見や早期治療といった現代医療に不可欠な放射線の専門家を養成する学科です。兵庫県の大学では初めて設置される学科で、それだけに社会に対し、また入学してくる

学生に対し責任の重さを感じずにはられません。ちょうど最近、テレビで「ラジエーションハウス～放射線科の診断レポート～」という連続ドラマが放映され、診療放射線技師の活躍する現場がわかりやすく紹介されています。若い人たちの関心が高まり、新学科への志望者が増えることを期待しています。

本学では現在、保健科学部に医療検査学科と看護学科、教育学部にこども教育学科、短期大学部に口腔保健学科と看護学科通信制課程を擁していますが、これに新学科が加わることによって、医療・教育系の大学として、よりしっかりした方向性が得られるものと確信しています。「いのちに寄り添い、いのちを支える専門職業人の育成」という本学の目的が、さらに明確になることでしょう。

最後に、今回は本学の強みとなっている地域子育てや、ネパールなどとの交流について報告する余裕がありませんでしたが、今後ともこうした特色を独自の教育理念のなかでしっかりと位置づけていきたいと考えています。

◆◆◆◆◆兵庫県初の診療放射線学科◆◆◆◆◆

来年、日本でオリンピックが開催される年に神戸常盤大学は、兵庫県内の大学で初めて診療放射線技師を養成する「診療放射線学科」を開設する予定にしています。

【放射線】と聞いて、私たちがまず思い出すのは、1885年にドイツの物理学者ヴィルヘルム・コンラート・レントゲンが初めて発見したエックス線ではないでしょうか？

このエックス線のことを発見者であるレントゲンに敬意を表してレントゲン線とよぶことがあったため、今でも「レントゲンを撮る」、「レントゲン技師」などの言葉を耳にすることもありますが、正式な表現ではありません。

「レントゲン技師」ではなく、「診療放射線技師」という社会にとって重要な職業をもっと多くの人に知ってもらいたい、そんな想いを実現したいと考えています。

また、京都府、大阪府、岡山県、及び広島県には既に養成する大学が存在しているのに、本学が位置する兵庫県内には診療放射線技師を養成する大学がなく、県内を中心に診療放射線技師

を志望する者の受け皿となることを目指しています。

本学は他所あるいは他者のマネをするのではなく、先導する者でありたいという学園が大切にしている精神と、知性と感性を備えた専門職業人の養成という教育理念のもと、前述のききな役割を担っていきたいと考えています。

「教育と医療の神戸常盤大学」と謳っている本学にとって、既設の医療検査学科、看護学科に加えて新たに保健科学部に診療放射線学科が加わることは非常に大きく、短期大学部には口腔保健学科もあり、全学的にチーム医療についてより実践的な教育・指導を展開することが可能となっていきます。

また、充実した教育・指導を行うため、専門の実習室および講義室を備えた新しい校舎、8号館(仮称)も第1期生を迎える夏ごろには緑風館の隣に完成する予定で建築工事を進めています。

これから更にたくさんのスペシャリストたちがこの「ときわ」から巣立っていくことをご期待ください。



新8号館完成イメージ



入学式

2019年度 学外オリエンテーション

学生部長
医療検査学科 教授 柝倉 匡文



新入生がよりよい学生生活のスタートを切れるよう、新入生同士や上級生、教職員との親睦・交流を目的として学外オリエンテーションが毎年行われています。今年度も4月5日から1泊2日で、淡路夢舞台国際会議場に隣接するウェスティンホテル淡路で開催されました。

参加人数は全新生340人、教職員83人、自治会やボランティアの上級生60人の総勢483人でした。開会式に続いて、先輩学生たちが企画運営に携わった「学生によるトキワシンポジウム」が開かれ、各学科紹介や、課外活動などの紹介がありました。午後の部では、日本タバコフリー学会代表理事の 園 潤先生に禁煙のお話をいただいた後、学科ごとに分かれ、新入生と教員・上級生との交流が行われました。医療検査学科ではテーマ毎にブースを設け、質疑応答を通じて交流を深めました。看護学科、こども教育学科では趣向を凝らしたゲームや読書感想会(こども教育学科)で盛り上がりました。口腔保健学科ではOGから、学生時代の過ごし方や歯科衛生士の仕事についてお話を聞くことができ、新入生は大いに刺激を受けました。翌日は、4学科混成チーム編成で、広い庭園を舞台に昨年同様、フォトコンテストが行われました。今回も素晴らしい作品ばかりでした。

2日間とも好天に恵まれ、全員が体調を崩すことなく、無事に終えることができました。新入生の皆さんには神戸常盤大学の学生としての自覚と誇りを持って、充実した学生生活を送ってほしいと思います。



フォトコンテスト表彰式

新入生を迎えて



副学長
保健科学部 学部長
鎌田 美智子

新緑に覆われ花々に囲まれたキャンパスに、改元という歴史的な始まりの時が巡ってきました。新しい年号は、ご存じの通り万葉集からの出典で、まさに梅花が匂い立つような美しい語感だと言えます。ところで万葉集とは奈良時代の歌集ですが、貴族から庶民まで各階層の歌が収められています。エリートだけではなく庶民も、歌という能力によって、脚光を浴びることが可能だったのです。生まれや貧富の差ではなく、学ぶこと知ることによる能力によって、人生が切り開かれてゆく…。

さて新入生の皆さん、いよいよ大学生活のスタートです。令和の元号の下で、皆さんに等しく与えられた学ぶことの真実を大いに発揮してください。

本学園は、今年111周年をむかえます。この長い歴史にこれからは皆さんを加え、さらに深く確かな道程となるはず

です。また本学は2学部3学科、そして短期大学部と、共に専門職の育成を目指しています。来年にはさらに診療放射線学科(設置構想中)が加わる予定です。我が国は超高齢少子社会の真ただ中にあり、専門職にはそのニーズに的確に対応できる力が求められています。このためには、それぞれが独立した機能と役割を果たし、かつ協働し、その総和以上の力を発揮することが必要となります。

本学で豊かな基盤教育と確かな専門教育を学び、各学科共に“学びの絆”を深めつつ、知性と感性、そして連携力を備えた専門職を目指してください。



教育学部 学部長
大森 雅人

教育学部こども教育学科にご入学の皆さん、おめでとうございませう。本年度は、94名の新入生をお迎えいたしました。皆さんをお迎えできたことを、心より嬉しく思っています。

いよいよ大学生としての生活が始まりました。これからの4年間、主体的に学び、多様な経験を重ねて、しっかりと自分の夢を叶えられることを心より願っています。

昨年度に学園創立110周年を迎えた本学園は、「令和」という時代の幕開けと歩みをとともにするように、新たな発展を遂げています。全国でも珍しい存在である子育て総合支援施設「KIT(きつと)」が昨年度にオープンし、2年目を迎える本年度はいよいよその活動が本格化していきます。さらに来年度には、新たな学科もスタートする予定で、キャンパスでは新学舎の建設が始まっています。皆さんの学びの場は、人的環境と物的環境の両方で広がっていくのです。

「KIT」には、子育て広場「ときわんクニヅカ」、学びの広場「てらこや」、地域交流広場「コティエ」の3つの場があり、小学生や未就園児と保護者(家族)、そして地域の方々が集ってこられます。そこでは子育て支援への貢献、小学生の学びのサポート、地域の方々との交流といった貴重な経験ができます。学生の中に、そうしたチャンスを活かされることをお勧めします。

皆さんの頑張りを、心から期待いたします。教員一同、全力でサポートします。



保健科学部
医療検査学科 学科長
坂本 秀生

新入学生の皆さん、医療検査学科へようこそ。皆さんと淡路島での学外オリエンテーションにて接し、「明るい新入生達」との印象を持ちました。その明るさは未来に向けた「希望や夢」で満ちている証でしょう。

「希望や夢」を思うだけでなく、目標にしましょう。偉業と呼ばれるような出来事も最初は「希望や夢」でした。皆さんの「希望や夢」も達成するまでの過程を「目標」として考え、実行することで実現できます。自分は何を持ち、足りないのは何か考え、失敗を恐れない行動が未来を生みます。

失敗は行動した者だけが経験し、若いうちの経験は失敗でさえ将来の財産になります。どうせ行動するのなら、仲間を作りましょう。人は一人では生きてゆけず、「希望や夢」の達成には多くの方との関わりが大事です。

皆さんには未来がある。神戸常盤大学で出会った友人と共に自分に自信を持って進み、「希望や夢」を実現するため4年間を過ごしましょう。



保健科学部
看護学科 学科長
長尾 厚子

今年は、桜満開の時期に新入生83名をお迎えいたしました。新しい年号である「令和」の発表があり、さらに新たな気持ちで取り組んでいきたいと思っています。

看護学科では「いのちを支える確かな知識と技術、豊かな心をもつヒューマンケアのプロ」を目指し、カリキュラムを構築し展開しています。さらに、多くの科目が1年次に展開される基盤教育分野での幅広い教養分野の科目をはじめ、4年間をとおして「豊かな心」を育み、「ひと」として成長していくための糧となる多くの学修内容を展開しています。

早速、8月には「看護活動基礎実習」で主たる6施設の病院で4日間の実習を体験します。患者様を中心とした多職種とのチーム医療の実践、退院支援調整、地域連携等、まさに地域包括ケアシステムの中核となる病院での看護専門職の役割を学び、今後の学びの方向に専門職としての課題が見えるのではないのでしょうか。



教育学部
こども教育学科 学科長
光成 研一郎

こども教育学科にご入学の皆さん、入学おめでとうございませう。私も今年度より学科長を拝命しましたので、みなさんと同じ新鮮な気持ちで新年度を迎えています。

大学での学びは高校までの学びと違って、より主体性、積極性が求められる学びとなることでしょう。われわれこども教育学科の教員は、皆さんが10年後、20年後にいよいよと教育現場等で活躍できることを願ってカリキュラムを構築しています。それは我々が正課と位置づけている教育課程内だけの学びに限りません。我々が準正課・正課外と呼んでいる様々な活動にもぜひ参加してください。本学に設置されている教職支援センターでの教職採用試験対策プログラムへの参加はもちろんのこと、地域交流センター、国際交流センター、昨年度新たに設置された子育て総合支援施設「KIT(きつと)」等での学内外プロジェクトにも取り組んでください。これらのセンター等を利用した活動を我々は準正課活動と呼んでいます。また部活動や皆さんの個人的に行っている社会的活動などを正課外活動とし、それらを総じて、皆さんを成長させる経験、学びとして捉えています。

あつという間の4年間です。悔いのない充実した大学生活を送ってください。もちろん学科教員一同、全力でサポートします。



短期大学部
口腔保健学科 学科長
吉田 幸恵

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。保護者の皆様におかれましても心よりお喜びのことと存じます。本学科の教育理念は、豊かな感性と知性を備え、口腔保健の立場から、人々の健康に寄与できる、資質の高い歯科衛生士を養成することです。皆さんも本学科の教育理念に共感し、高い志と明確な目的を持って入学されたことと思います。本学科の教育課程は皆さんの志を尊重し、目的を達成できるよう組まれていますので、最初は聞きなれない用語や新しい学問の勉強ばかりで戸惑いや不安が大きいかも知れませんが、安心して学業に励み、専門職にふさわしい知性を身につけて下さい。

また、大学では学業だけでなく、部活やサークル活動で学部・学科を越えた交流や、ボランティアや地域活動での社会体験を通して、多様な価値観を持った人に会って下さい。多くの人と会って、教室では身につけにくい感性を育て下さい。さあ、夢の実現に向かって共に歩みましょう。



短期大学部
看護学科通信制課程 課程長
金川 治美

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。4月の学習説明会で一緒に考えたレポート作成計画に着手する一方で春期スクーリングも始まり、いよいよ目標に向かっての一步を踏み出された事と思います。今はまだ、期待と同じくらい不安で一杯だと思います。しばらく離れていた勉強をするという事自体が大変な挑戦ですし、仕事や家庭での様々な役割をこなしながら学習を継続することは容易ではありません。我々教職員一同は、皆さんの「なりたい自分になる」ための努力に対して全力でサポートします。

皆さんがこれまで培ってこられた臨床経験を意味づけ、目的意識と問題意識を持った社会に貢献できる看護師になることを目指して頑張ってください。そして、頑張るだけでなく勉強を楽しむことも忘れないでください。通信制ではありませんが、ぜひ共に学ぶ友との語らいや教員との交流も楽しんで有意義な学生生活を送ってください。我々教員も理想と希望を語りながら、皆さんと学び合いたいと思っています。

1年担任紹介

医療検査学科



Aクラス担任
栗岡 誠司
有機化学
無機化学
分析化学実習



Bクラス担任
新谷 路子
解剖組織学
病理学
基礎検査学

看護学科



Aクラス担任
藤原 桜
基本看護技術I、II、III



Aクラス担任
光安 早織
基本看護技術I、III



Bクラス担任
坂井 利衣
小児援助論
母子支援実習I

こども教育学科



教員養成コース
山下 敦子
国語
アカデミックライティング
教職論



保育者養成コース
笹井 隆邦
人類と地球環境
理科
卒業研究



保育者養成コース
柳原利佳子
基礎研究演習I
教育心理学

こども教育学科



保育者養成コース
大城 亜水
家庭支援論
情報基礎
地域との協働A



A/Bクラス担任
福田 昌代
歯科保健指導論II



Aクラス担任
八木 孝和
人体の機能
臨床歯科V(矯正歯科)

口腔保健学科



Bクラス担任
澤田 美佐緒
歯科診療補助演習II
オーラルリハビリテーション演習

新任の紹介

①住所 ②所属 ③専門分野 ④趣味・特技 ⑤好きな言葉



大澤 佳代

- ①神戸市
- ②医療検査学科
- ③病原体微生物学、感染制御学
- ④歌を歌うこと
- ⑤真摯



西村 充弘

- ①神戸市
- ②看護学科
- ③精神看護学
- ④どこでも眠れる
- ⑤桜梅桃李



武士 由美

- ①神戸市
- ②看護学科
- ③基礎看護学
- ④旅行
- ⑤今を大切に



坂井 利衣

- ①大阪市
- ②看護学科
- ③小児看護学
- ④トレンドチェック、美容
- ⑤明日は明日の風が吹く



光安 早織

- ①加古郡
- ②看護学科
- ③基礎看護学
- ④テニス
- ⑤失敗は成功のもと



京極 重智

- ①神戸市
- ②こども教育学科
- ③教育人間学
- ④サブカルチャー
- ⑤すべてこの世は舞台



八木 孝和

- ①神戸市
- ②口腔保健学科
- ③矯正歯科学
- ④マラソン・テニス
- ⑤一期一会



高橋 由希子

- ①神戸市
- ②口腔保健学科
- ③予防歯科学 口腔保健学
- ④読書
- ⑤継続は力なり



小林 容子

- ①神戸市
- ②口腔保健学科
- ③障害者歯科
- ④体を動かすことなんでも
- ⑤ハクナ・マタタ



今井 方丈

- ①神戸市
- ②事務局
- ④音楽鑑賞
- ⑤人事を尽くして天命を待つ



木村 英理

- ①神戸市
- ②事務局
- ④プロ野球観戦(オリックスを応援しています)
- ⑤人生の全ては奇跡で作られている



江籠平 光男

- ①神戸市
- ②事務局
- ④映画鑑賞、モータースポーツ、サックス、イタリア語
- ⑤真実如寒梅



村瀬 有紀

- ①神戸市
- ②事務局
- ④美術館巡り
- ⑤笑う門には福来る



藤嶋 乃里子

- ①神戸市
- ②事務局
- ④ハモること
- ⑤一言芳恩



岡田 裕巳

- ①明石市
- ②事務局
- ④乗り鉄、上手にならないゴルフ
- ⑤LET IT BE

カンボジア病理技術研修プロジェクトが開催されました

2019年3月18日～31日まで、プノンペンの国立病院4施設から臨床検査技師研修生5名が来日され、神戸常盤大学で研修を受けられました。

カンボジアの臨床検査教育では科目として「病理技術」が無く、現地の臨床検査技師は見よう見まねで病理業務を行っているのが現状です。そこで本研修では「カンボジアにおける病理検査技術の質の向上」を目標にし、神戸東ロータリークラブ、ロータリークラブプノンペンメトロ、神戸常盤大学、公益財団法人神戸国際医療交流財団、カンボジア産婦人科学会の共同主催にて職業研修を実施しました。

滞在中は本学における大学教育レベルの授業に加え、兵庫医科大学病院や兵庫臨床検査センターなど臨床検査の現場を視察し、今後カンボジアで増加が予想される病理検査に対応できる技術を学んでいただきました。カンボジア帰国後、それぞれの病院で学んだ事を生かして活躍してくれることを信じています。



本学病理実習室にて



修了証書授与式

1年を振り返って



医療検査学科 2年
竹内 冴絵香

入学してからの1年間、慣れない90分授業やレポート作成など、自分にとっては忙しくせわしく過ぎた時間でした。正直、初めは周りのレベルについていけるかが不安だったので、誰よりも先生の声が届くところで授業を受け、当たり前のことですが、先生がおっしゃったことのメモを必死で取りました。そのおかげで自分に自信が付き、納得のいく結果で一年を終えることができました。新しく出会った先生方、友達は、私にとって刺激になり、頑張ろうと思わせてもらえるそんな存在です。学校にも慣れ、自分に合った勉強方法を見つけながらも、これからはボランティア活動にも取り組みたいと考えています。2年生が始まった今、実習や専門分野がたくさんあり、今までよりも大変なことが増えると思いますが、自分なりに勉強や大学の楽しみ方を探して、試行錯誤しながら、充実した大学生活を築き上げていきたいと思っています。



看護学科 2年
嶋田 実智子

私にとってこの1年は、とても充実していました。入学して1ヶ月も経たないうちに病院実習に行き、実際の医療現場を見学したことによって、看護を学ぶ意欲がより一層強くなりました。後期からは演習も始まり、看護師になる夢に一步近づけたように感じました。しかし、予習をしても、演習では思うように出来ず、何度も落ち込みました。「演習は練習あるのみ!」と感じた私は、放課後に友達とたくさん練習しました。その際、友達と教え合いながら学ぶことで、新たな発見が生まれ、より良い学びになり、改めて仲間の大切さを感じる事が出来ました。また、「健康ふれあいフェスタ」ではアロマハンドマッサージをおこないました。地域の方々に「リラックス出来た」と言っていただけたり、「勉強頑張ってるね」と声を掛けていただけて、とても嬉しかったです。周りで支えて下さる方々への感謝の気持ちを忘れずに、2年生も充実した1年になるよう、頑張ります。



こども教育学科 4年
山田 裕香

この1年間は、将来についてじっくり考え、具体的に経験を積み重ねることができた貴重な1年になりました。中でも、保育、教育実習体験での学びが大きいです。保育の仕事の大変さ、責任の重さを感じたとともに、先生方がやりがいを持って仕事をされている姿を見て、憧れが強くなりました。保育園、幼稚園、施設、3つの実習で乳幼児保育、障害児支援に関わらせていただいた事で、確実に考え方の幅が広がりました。さらに、学外のボランティアでは、小学生以下の子ども達を対象に、遊びながら学びを広げる活動に取り組み、充実した日々を送ることができました。そこではグループの役員として、活動の企画、運営に取り組みました。その中で企画を立案する大変さや楽しさ、実行に移す難しさ、日々葛藤しながらも、子ども達と共に歩む大切さを感じました。また、こども教育学科海外研修に参加し、ニュージーランドの保育所、小学校で実習をさせていただきました。この研修を通して、自身の視野が広がりました。この1年、自分が成長するためにたくさんの方々に支えていただいたことに感謝しています。



口腔保健学科 2年
壺井 美佑

1年前に本学へ入学した頃は、新しい環境でやっていけるのか、友達はできるのか、など不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、それらの不安はすぐになくなり、今では毎日とても充実した日々を送ることができています。私は、大学入学と同時に親元を離れ、一人暮らしを始めました。今まで何から何まで親に任せきりで、最初の頃は慣れない家事に苦戦していました。しかし、一人暮らしをすることで、これまで何気なく接していた親が、どれほどありがたい存在であるかということに気づくことができ、親への感謝の気持ちを忘れてはならないと改めて感じました。大学生活では、同じ夢に向かって頑張る素敵な友達に出会うことができました。勉強で分からないところを教え合ったり、悩みごとがあると相談に乗ってもらったり、側で支えてくれる友達がいるから、辛いことや悔しいことも乗り越えられます。残り2年で、もっともっと沢山の知識と技術を身につけ、患者さんに信頼される歯科衛生士になりたいです。



看護学科通信制課程 2年
西野 真理子

1年前、「絶対に2年で卒業・国試に合格する!!」という決意で入学しました。しかし、仕事・家庭・育児・学業を同時進行するという事は、並大抵の覚悟ではできません。まずは、今後の目標と予定を家族に相談し協力を得る事から始めました。そして、自分に言い続けている事は、人生の中でのたった2年、その2年をどれだけ学習に打ち込み努力が継続できるかという信念です。私は、自分とのルールがあり学習計画を立てています。毎日3時間、休日は8時間の勉強をすること、たったこれだけです。計画よりも早めに次の課題へ取り組めるか、これを目標にする事で結果的には、時間と心に余裕が生まれました。しかし、泣きたいほどに勉強がわからず苦しくなる事もあります。そんな時は、周囲の尊敬できる厳しい人や先生に相談します。私の座右の銘は「継続は力なり」「凡事徹底」です。日々、研鑽を積みながら、来年、必ず卒業・国試合格を果たしていきます。

実習体験記

臨地実習を終えて



医療検査学科 4年
林 萌恵

38日間病院で実習をして、患者さんとの関わり方やどのように仕事をしているのか、学校での勉強がどう生かされるのかを経験する事が出来ました。初めは、実習についていけるかと不安や緊張でいっぱいでした。しかし、技師の先生方が優しくご指導してくださって、とても楽しい実習でした。生理検査では、実際に患者さんのよび入れや電極をつけさせていただきました。検体検査では、データの見方や精度管理を教えていただきました。精度管理は実際に何度かさせていただきました。自分たちが正しい精度管理をしなければ患者さんの結果に影響を与えらると思うと、すごく怖かったです。しかし、そのおかげで座学で学ぶよりも精度管理についてわかるようになりました。他にもチーム医療に参加させていただいたり、勉強会にも連れて行っていただき、とてもいい経験になりました。病理では実際に術中迅速をしたり、解剖を見学させていただきました。毎日忙しかったですが、とても充実していました。ここで学んだことをこれからの生活で生かして、国家試験に励みます。

臨地実習を終えて



看護学科 4年
鈴木 そよか

領域別実習では、糖尿病や気管支喘息、ALS、大腿骨転子部骨折術後など様々な疾患の患者様を受け持たせていただきました。患者様と積極的にコミュニケーションをとることで、徐々に信頼関係を構築し、生活様式や価値観、性格、感情などを捉えることができました。医療的情報のみならず、その人の全体像を捉えることで個別的な看護を行うことにつながりました。また、患者様は退院後も生活は続いていくため、入院中から先を見越した看護が必要であると学びました。そのためには、患者様の立場になって考えることが大切であると気付きました。さらに、退院後も、患者様がその人らしい生活を送れるよう、何故この治療が必要なのか根拠を伝えていくことや、ご家族にも情報の提供を行い、患者様の生活を支えてもらえるようにしていくことが重要であると学びました。今回の学びを看護師になった時に活かしていきたいと思います。

保育所実習を終えて



こども教育学科 4年
大橋 日向子

2週間の保育実習を終え、より一層保育者としての道を歩んでいきたいという思いが強くなりました。私は、1週目に0歳児クラス、2週目に2歳児クラスに入らせていただきました。0歳児クラスでは、1週間でも子どもはどんどんと成長していました。つかまり立ちをしていた子どもが一人で立とうと頑張る姿や、怖がりだった子どもが新たなことに果敢に挑む姿を見て、保育者だからこそ感じられる喜びを知ることができました。2歳児クラスでは、実態を把握する大切さを学びました。2歳児は平行遊びが中心であると想定していましたが、子どもたち自身で声を掛け合いながら電車ごっこを始める姿が見られ驚きました。クラスの実態を把握し、その後のかかわり方を工夫していくことで、子どもの思いや行動に応答していく力が身についたと感じます。この保育実習は私の中で今後の大きな糧となりました。理想とする保育者像に近づくことができるよう励んでいきます。

小学校実習を終えて



こども教育学科 4年
山本 勇登

教育実習を通して、児童から得た学びと私自身の内面の変化がありました。その中でも特に二つのことが自身の成長に繋がったと感じています。まずは、教師のやりがいを感じる事ができたことです。実習生ではありながら、現場の先生方や児童から「山本先生」と呼ばれ、授業実践や学級経営の一端を担うことができました。その中で日々成長し続ける児童の姿を目にし、私も成長し続けなければという思いが湧き上がりました。次に、運動場で元気いっぱいの児童と毎日過ごすことができる小学校教諭になることへの強い決意を新たにしました。教育実習に参加するまでは、教師への適性があるのかと何度も自問自答していました。しかし、教育現場での先生方との出会いや授業実践を通じた児童の成長を目の当たりにしたおかげで、小学校教諭こそ私の進むべき道だという熱意が高まり、必ず先生になってこの小学校へ帰ってくると決意しました。実習を終えてからは、子育て総合支援施設「KIT(きつと)」や少年サッカーのコーチボランティアで指導技術を磨き、大学では教員採用試験に向けて同志と切磋琢磨して勉学に励んでいます。よりよい教師になれるように日々邁進していきたいです。

学生自治会長あいさつ



こども教育学科 3年
森脇 翼

本年度の自治会長を仰せつかりました。学生自治会は、学生間の活発な交流と学生ならではの発想力と行動力を活かし、全学生の学生生活の充実を目指して活動します。自治会長として責任感をもって活動してまいります。この大学で学ぶ学生は、人を対象にした専門職を目指しています。学科・学年の垣根を越えて多くの学生が自己研鑽し合えるよう自治会全員の力を結集して努めていきます。1年間、全力で取り組みますので、よろしくお願いいたします。

シンポジウム開催

本学は、平成最後のこの3月、兵庫国際交流会館において『2040年に向けた高等教育のグランドデザインに関するシンポジウム これからの大学が担う地域への役割と責任―「地域連携プラットフォーム」が描く未来地図―』を開催しました。

シンポジウムの第1部では、文部科学省高等教育局企画官・高等教育政策室長である石橋晶氏、そして神戸市副市長の寺崎秀俊氏がそれぞれ講演を行い、第2部では、両名に加え、神戸新聞社論説委員の小林由佳氏にも登壇いただき、濱田学長、大森教育学部長と熱い討論が行われました。この壇上の熱気は、舞台下の参加者にも伝わり、会場全体で様々な意見が飛び交いました。

当日は、神戸市内の大学関係者だけでなく、遠くは広島、岡山の大学から参加してくださった方々、そして10名以上の飛び入り参加者を含む定員150名を超える人たちが会場である多目的ホールは、暑さを感じるほどでした。

新聞で報道されており、周知の事実ですが、文部科学省は、最長5年間の継続支援をする「私立大学研究ブランディング事業」を計画途中で打ち切ることを決めました。

本学は平成29年同事業のタイプA(補助期間:5年間)で兵庫県唯一の採択でしたが、折り返しとなるはずの令和元年で補助打ち切りとなってしまいました。

しかし、多くの他大学が本学の「地域連携プラットフォーム」に興味・関心を示していること、そしてこの取り組みは補助事業に採択されたことでスタートした訳ではなく、本学にとって、新たな段階へのステップを加速させたに過ぎないと考えています。

今後も、大正筋商店街に開設した「子育て総合支援施設KIT(きっと)」を教育・研究活動の拠点とし、地域貢献を引き続き、精力的に行っていくのだ!と改めて決意することができた1日でした。



開会挨拶



パネルディスカッション

ニュージーランド研修

2019年2月22日から3月3日までの10日間、こども教育学科の学生13名がニュージーランド・クライストチャーチで海外研修を行いました。昼は現地の保育所や小学校で見学・実習を行うとともに、夜はホームステイ先で現地の人と一緒に過ごすなど、学生たちは異文化の中で10日間を過ごしました。日本とは異なる教育環境・生活環境に戸惑いながらも、学生たちは持てる力を出し切って様々なことに挑戦しました。

保育所でのふれあい遊びや小学校での授業実践を行うにあたっては、学生たちが事前に日本で十分な練習を積み重ねていました。しかし、実際は練習のようにいきませんでした。その原因の一つは、日本と異なる教育環境にありました。集団指導に慣れていないニュージーランドの子どもたちと、集団指導を基盤とした教育観をもつ学生たち。日本の子どもたちの前では当たり前に行えることが、ニュージーランドの子どもたちの前では当たり前に行えないことを学生たちは実習を通して実感

こども教育学科 特命准教授 國崎 大恩



ました。しかし、文化は異なっても、子どもの自由な発想は変わりません。学生たちは、異文化の中でも見慣れたものに出会っていたのです。

こうしたことはホームステイ先でも同じです。学生たちは生活文化の違いや英語表現の難しさに戸惑いつつ、さらには人とコミュニケーションをすること自体の難しさも実感していました。異文化との出会いとは、まさにこうした異なる価値観に触れるとともに、文化の違いをこえた共通性に触れることではないでしょうか。今回の海外研修に参加した学生たちは、この経験を今後の人生に活かして欲しいと願っています。

最後になりましたが、この報告を書いている3月15日、クライストチャーチで痛ましい事件が起こりました。犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げると共に、異文化に寛容であるクライストチャーチという街の良さが今後失われることのないように願っています。



就学前教育機関 Seedlings ELC Longhurst 前で



Marshland School でのパフォーマンス準備 高学年グループ



Marshland School でのパフォーマンス準備 低学年グループ



研究ノート

学際的な分野Eduinformatics(教育情報学)の提唱

こども教育学科 准教授 高松 邦彦



特に近年、文部科学省は日本の大学に、Institutional Research (IR)と言われる、大学内のデータを取り扱う部署の設置を求めています。私達は、Eduinformaticsの一貫として、このIRの研究も行っています。IRの国際学会として、Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE)、International Institute of Applied Informatics (IIAI)が主催の2019 International Congress on Advanced Applied Informatics (AAI2019)、8th International Conference on Data Science and Institutional Research (DSIR 2019)が存在します。私達は近年、高等教育に対して科学的な解析を行う幅広い研究を行っています。私達は近年、この学際的な研究分野を、Education(教育)とInformatics(情報学)の両方を組み合わせEduinformatics(情報教育学)と名づけ提唱しています。

私は2019年のこの国際学会の大会長として協力をさせていただきました。この国際学会では、世界中からさまざまなIRの研究について、論文と共に口頭やポスターで発表されます。私達も、この国際学会で近年急速に発達している機械学習、AIを用いて教育関連のデータを解析した研究を発表する予定です。

また、その他の機械学習を用いた研究も行っております。人工知能学会セマンティックウェブとオントロジー研究会は、人工知能技術による推論(推定)に関して、認識の共有と必要な技術の開発・促進を図ることを目的としたコンテスト「ナレッジグラフ推論チャレンジ」を開催しました。このコンテストの研究内容は、AIで探偵ホームズの犯人当て(理由付き)を競うものです。私が参加したチーム「FLL-ML」は、第1回ナレッジグラフ推論チャレンジでベストリソース賞を受賞しました。

健康とかみ合わせについて

口腔保健学科 教授 八木 孝和



私は歯並びやかみ合わせを治すことを専門としております。歯並びを治すことは多くの利点があり、今回は、かみ合わせとあごの運動について説明します。通常のかみ合わせは、上の歯が下の歯に被さる位置関係になりますが、食物を摂取する運動(咀嚼運動)の下あごの動きに注目すると、通常は奥歯で食物をすりつぶすのに有利なように、前から見るとティアドロップ様の円弧を描く咀嚼運動(グライディングタイプといいます)を繰り返します。一方、特に上あごよりも下あごの位置が反対になる下顎前突という状態では、上下に食物を切断するような運動(チョッピングタイプ)をする人が多く、食物をすりつぶして飲み込んでいない可能性が分かりました。また、下あごを動かす各筋肉のバランスが悪いこともわかりました。これは、胃や腸での消化に負担をかけていることとなります。このような下顎前突者に対して、外科手術で下あごを後方に下げると、見た目の顔貌も大きく変わり、咀嚼運動は、グライディングに近づき、筋肉のバランスも、普通のかみ合わせの人と同じバランスになることが分かりました。かみ合わせを変えることは、単に審美的に歯並びが良くなるだけでなく、食物の噛み方まで大きく変える可能性があり、よく噛めるようにすることで、消化吸収を助け、全身の健康を高めて、より良い生活に導く可能性があります。



ネパール研修報告

私がネパール研修に参加するのは今回で2回目でした。1回目は高校生だったため病院を見学したときも「薄暗くあまり綺麗ではない」とぼんやりしたことしか感じませんでした。しかし、2回目に病院を見学した際、日本であればNICUに入っているような子どもの食事介助を家族が行っている場面を見ました。日本なら看護師が慎重に行う大事な生活の援助を、素人の家族がしてもいいのか、とても不安に感じました。しかし、調べてみると日本もつい半世紀前まで、家族が世話をしていたことがわかり、ネパールも医療が進化していくのではと思うと、更にネパールの

看護学科 3年 洞ヶ瀬 有



医療事情に興味を持ちました。

また、私は研修前にネパールからの留学生をホームステイ先として受け入れました。その縁で、今回、その留学生の家にホームステイさせていただき、家族の一員として家事を手伝ったり、相談をしたり話し合ったりできたので、ネパールに第二の家族ができたように思いました。



トリブバン国際空港にて



ホストファミリーと



ときわ幼稚園通信



ときわ幼稚園 教諭
宮川 智菜美

4月10日に始業式、11日に入園式を行い新年度が始まりました。
 新入園児の中には初めは不安で泣いてしまう子どももいましたが、徐々に慣れてきて先生と一緒にままごとをしたり園庭で遊んだりして楽しんで過ごす姿が見られるようになってきました。
 進級児は、一つ大きいワラスになったことが嬉しい様子で「新しいお友達にいろいろ優しく教えてあげる」と張り切っています。
 園庭の花の盛りが過ぎた頃、年長組の子どもたちが花びらを使って色水をつくりジュース屋さんごっこ遊びをしていました。綺麗な色水に興味をもった年中児が「ぶどうジュースください」とお客さんになって遊びに参加しました。「僕もジュースつくりたい」と話す年中児に「お花を入れてこうやって混ぜるんだよ」と年長児が優しく話しながら一緒に遊んでいました。
 様々な遊びの中で友達とかかわる楽しさを感じたり、友達を思いやる気持ちをもったりすることができるように支えていきたいと思います。



異年齢のかかわり「ジュースをどうぞ」



チャンスを逃さず

医療検査学科 7期 須广 祐介

私は学生の時に神戸学生フォーラムで300人を前にした発表、Love49(子宮頸癌啓発活動)、海外活動(ポストン海外研修)、常盤大学紹介動画撮影、第11回日本臨床検査学教育学会学術大会での発表など国家試験勉強以外にも様々な活動を行ってきました。
 これらの活動を行うにあたって最も大切にしていたことは「チャンスを逃さず」です。国家試験の勉強やバイトの合間に発表の準備や活動を行うことは莫大な労力を費やし途中で投げ出したいくなる時もありました。しかしそのしんどさの中に必ずチャンスがあると信じ、4年間突っ走ってきました。
 現在では細胞学会のワークショップのスタッフ、兵庫県臨床細胞学会総会の司会など業務外の活動を学生時代

同様、チャンスを逃さないために頑張っています。これらすべてが学生時代に様々な活動を成し遂げてきた自信があるから、自ら進んで活動できています。
 今後も業務以外にも様々なことに挑戦してこの先の臨床検査技師人生を充実したものになりたいと思います。



第11回日本臨床検査学教育学会学術大会の発表中



神戸常盤大学短期大学部歯科診療所のご案内 ☆あなたのお口の健康をまもります☆

〈診療時間〉

月曜日～金曜日 10:00～12:00/13:00～16:00

〈診療内容〉

歯磨き指導、歯のお手入れ、義歯のお手入れ、フッ化物塗布、むし歯や歯周病の検査、お口の機能向上、お口の健康相談

“あなたに合ったお口の健康を保つ方法をお伝えします！”

小さなお子さまから、どなたでもお越しください”

〈費用〉

基本料金500円

〈神戸市在住の方〉

- ◆神戸市妊婦歯科健康診査
- ◆神戸市40歳総合健診歯周疾患検診
- ◆神戸市50歳歯周疾患検診
- ◆後期高齢者(75歳以上) 歯科健康診査

を行っております。これらの健診は無料です。

〈予約方法〉

078-611-1831(神戸常盤大学短期大学部歯科診療所)
 予約の上、お越しください。



令和元年度 オープンキャンパスのお知らせ

〈日 時〉 6/15(土)、7/14(日)、8/3(土)、8/31(土)
 13:00～16:30

〈内 容〉 学部・学科紹介、キャンパスツアー、
 体験学習、模擬授業、個別相談等

〈参加方法〉 申し込みは不要です。(受付12:30～)

〈場 所〉 本学キャンパス(無料送迎バスも運行します)
 詳しくはHPで!

- ★看護学科通信制課程 総合説明会を同時に開催しています。
- ★見学・入試に関する事などのご質問は遠慮なく入試広報課にお問い合わせください。

〈問合せ先〉 入試広報課(078-611-1833)
 nyushi@kobe-tokiwa.ac.jp



財務情報につきましては、本学園のホームページをご覧ください。